

留学先大学： ヴェネツィア大学留学先での所属学部・研究科： 人文学部留学先での在籍身分： International Exchange Student留学期間： 2012 年 9 月～ 2013 年 6 月神戸大学での所属学部・研究科： 大学院人文学研究科学年（出発時）： 修士2年本報告書記入日： 2013 年 7 月 11 日**授業について**

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習, 復習, テスト等についてアドバイスも含 めて教えてください。
1	近世社会経済 史	Luciano Pezzolo	4時間 半	6	約10 人	以下、Pezzolo教授の授業では、会話が重視され、 留学生にも頻繁にイタリア語で質問がなされる。
2	近世史	同上	同上	同上	約7・ 8人	
3	近世グロー バルヒストリー	同上	同上	同上	約30 人	修士課程の授業。単位取得のためには、期末テストに 加え、授業内でのプレゼンテーションも求められる。
4	近現代軍事制 度史	同上	同上	同上	約20 人	同上
5	ヴェネツィア 共和国史	Claudio Povolo	同上	同上	約50 人	
6	ヴェネト史	同上	5時間	同上	約20 人	修士課程の授業。
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

自分の研究との兼ね合いもあり、授業には参加しているが期末試験を受けたことはない。そのような意味では、正式な履修をしたことはない。授業への参加に関しては、とりわけ留学生だからといって何らかの問題が発生することはない。現地の学生たちは非常に熱心であり、授業中に居眠りなどしている姿は全く見られない。他方、教室内の空調設備やAV機器が故障していることが多々ある。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃： 200000・住居費：（月額） 35000 ×（留学月数） 9 ヶ月 = 315000・食費：（月額） 21000 ×（留学月数） 9 ヶ月 = 189000・保険料： 155450・その他： 30000合計： 889450 （留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

研究面に関しては、主指導教官がとりわけ熱心に指導をして下さり、有意義な研究生活を送ることができた。留学前半は、主指導教官の授業に参加しつつ、彼と個別に面談を行い、自分の研究をすすめた。イタリアでは、いわゆるゼミ形式の授業は存在しないので、文字通り1対1の指導が留学生に限らず一般的である。授業のイタリア語に関しては、以前から歴史関係のイタリア語論文を読んでいたこともあり、かなりの程度理解することができた。もっとも、留学後半になり、現地での学会や研究会に参加するようになると、学問的な議論を行うためにはさらにイタリア語能力を向上させることが不可欠であると痛感した。語学学校や日常会話におけるイタリア語に関しては、当初は苦勞していたが、語学学校における学習の成果もあり、次第に理解ができるようになった。また、語学学校を通して台湾人からブラジル人までに至る多様な国籍の友人たちと関わる機会を得ることができた。さらに、ヴェネツィア大学はイタリアでも有数の日本研究の中心だということもあり、多くのイタリア人学生が日本語を学んでおり、彼らと両国の文化・社会に関して意見を交わすこともできた。

生活面に関しても、とりたてて目立った問題は起こらなかった。食事に関しては、ほぼ毎回、学生食堂を利用した。ただ、留学後半以降、円安の影響もあり、食事をピッツアやケバブなどの軽食で済ませることも多くなった。また、大学寮には台所がないものの、電気調理器具を持ち込み、自炊を行っている学生もいた。寮に関しては、静かな住宅地区に位置し、落ち着いた生活を送ることができる環境が整っている。他方、夜遅くまで開いている店はほとんどなく、買い物は計画的・規則的に行う必要があった。ヴェネツィアの気候は神戸よりも寒冷であるが、私は北海道の出身なので、あまり問題を感じてはいない。ただ、寮の暖房設備が故障する機会も多く、室内で少し肌寒さを感じることはあった。他方、夏になると、6月前半でも20度台後半の最高気温を記録するほど温暖になる。また、運河が張り巡らされているために、ヴェネツィアでは他のヨーロッパ諸地域に比べて湿度も高くなっている。寮に冷房設備がなかったことから、夏場の住環境はあまり快適なものではないだろうと推測される。

最後に、公共機関や大学の事務的サービスに関しては、人によって対応・説明が全く違ったり、その後の連絡が一向になかったり、郵便が届かなかったり等、多くの問題が私を含めた日本人留学生に対して起こっていた。ただ、近況報告でも述べたように、イタリアでは、自ら積極的に、直接事務員に行動を促していくことが重要であるように思われる。また、このことも含めた生活全般において、初めから日本とイタリアとの間には違いがあることをしっかり念頭に置いておけば、問題に対しても冷静に対応ができるのではないだろうか。総じて、海外での生活においては、異なる文化の論理を理解するよう努めた上で、それでも譲れない自身の意見を相手にも伝わる形で伝える努力が不可欠であり、留學生活を通してこれらの能力を向上させていくことができれば、大学での学業や就職活動にも大いに役に立つであろうと、私は考えている。